

## 学会ニュースNo.119 トピックス

- ・2017年度(第72回)総会・研究発表大会のご案内
- ・2017年度立正地理学会評議員会のお知らせ
- ・秋季例会(東京)・講演会・臨地研究会開催のお知らせ(第1報)
- ・第45回講演会報告
- ・第46回講演会報告
- ・第113回臨地研究会(東京)報告
- ・第114回臨地研究会(鹿児島)報告
- ・立正地理学会研究委員会の募集(新規)
- ・地理学教室だより
- ・『地域研究』への投稿のお願い
- ・今年度卒業予定の学生会員の皆様へ
- ・会費納入のお願い

## 会 告

### ○2017 年度(第 72 回)総会・研究発表大会のご案内

2017 年度(第 72 回)総会・研究発表大会を下記の要領にて開催いたします。

#### 記

1. 日時:2017 年 6 月 3 日(土)9:00(予定)より
2. 会場:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ A203 教室(予定)  
(当日、校内に案内を掲示いたします)
3. 総会委任状について  
次号の学会ニュースに総会委任状を同封します。
4. 昼食  
学生食堂(サハー・パルロットなど)が営業しております。
5. 懇親会
  - 1)会場:立正大学熊谷校舎学生食堂(予定)
  - 2)会費:一般 4,000 円・学生 2,000 円(予定)
  - 3)時間:17:00~19:00(予定)
6. 研究発表について
  - 1)申し込み  
発表希望者は、3 頁の発表申込用紙に所定事項を記入の上、2017 年 4 月 17 日(月)までに集会委員会宛に、郵送またはメールでお申し込みください。メールでお申し込みの際は、申込用紙と同一の内容を記載して geosoc@ris.ac.jp まで送信してください。

## 2) 形式

口頭発表とポスター発表があります。いずれかを選択してください。

### ●口頭発表

発表時間 15 分、質疑応答 5 分の計 20 分です。

会場には、パソコンと液晶プロジェクターが用意してあります。プレゼンテーションソフトは Windows 版 PowerPoint2013 です。発表用のファイルは、Windows で読み込めるフォーマットの USB メモリーに保存し、当日会場へご持参ください。なお、スライドや OHP の利用をご希望の方は集会委員会まで予めご相談ください。当日の申し出では、準備できない場合があります。

### ●ポスター発表

コアタイムとは別に 1 分程度の口頭による内容紹介を行っていただきます。

ポスターのサイズは A0 縦 (短辺 841 mm, 長辺 1189 mm) サイズまでです。

## 3) 要旨

発表者は要旨を必ずご提出ください。要旨は『地域研究』に掲載いたします。執筆要領は大会当日に編集委員会の受付で配付いたします。大会後、期日までにご提出ください。なお、発表要旨集は作成しません。

## 4) 配付資料

配付資料が必要な場合は、発表者が各自に必要な枚数をご用意ください。配付資料のコピー・印刷等は受け付けておりません。学内の有料のコピー機をご案内いたします。

## 7. 地理写真の募集

### 1) 申し込み

希望者は、3 頁の申込用紙に所定事項を記入の上、2017 年 4 月 17 日(月)までに集会委員会宛に、郵送またはメールでお申し込みください。メールでお申し込みの際は、申込用紙と同一の内容を記載して [geosoc@ris.ac.jp](mailto:geosoc@ris.ac.jp) まで送信してください。

### 2) 様式

地理写真のサイズは、A1 縦(短辺 594 mm,長辺 841 mm)サイズまでです。大会当日に所定の場所へ展示し、大会終了後は各自でお持ち帰りください。写真の大きさ・枚数・貼り方は自由です。写真には内容・場所・撮影日時などのキャプションを付記願います。

## 8. 研究発表大会プログラム・会場案内について

次号学会ニュース(2017 年 5 月発送予定)、ならびに学会ホームページ(<http://geo.rissho-map.jp/>)に掲載いたします。

## 9. 展示について

地理関係出版社の出版案内や図書販売が行われる予定です。

## 10. 災害等により開催が困難な場合の対応

地震や台風またはその他のやむを得ない理由によって大会の開催が困難な場合は、立正地理学会ホームページ(<http://geo.rissho-map.jp/>)または立正大学地理学科ホームページ(<http://rissho-map.jp/>)でお知らせいたします。

以上

2017年3月

2017 年度 研究発表大会 発表申込用紙

・発表者氏名・所属(共同発表の場合は、発表者に○印をつけて下さい)
・発表題目:
・発表形式(↓いずれかを○でかこんで下さい) 口頭発表 ・ ポスター発表
・連絡先 氏 名: 住 所:〒 — 電話番号: — — ( 自宅 ・ 勤務先 ) E-mail:

2017 年度 地理写真申込用紙

・氏名(所属)
・テーマ:
・連絡先 氏 名: 住 所:〒 — 電話番号: — — ( 自宅 ・ 勤務先 ) E-mail:

※申込用紙をコピーしてご利用いただくか、立正地理学会ホームページからファイルをダウンロードしてください。

## ○2017 年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2017 年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします。

### 記

1. 日時: 2017 年 6 月 2 日(金)18:00 より
  2. 場所: 立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ A610 会議室(予定)
  3. 議題: 1. 2016 年度事業報告の件  
2. 2016 年度決算報告の件  
3. 2017 年度事業計画案の件  
4. 2017 年度予算案の件  
5. その他(他に議題のある評議員の方は、集会委員会までお知らせ下さい。)
- 詳細については、次号学会ニュースにて評議員の方に同封するご案内をご覧ください。

以上

## ○秋季例会(東京)・講演会・臨地研究会開催のお知らせ(第 1 報)

11 月下旬に秋季例会・講演会を立正大学品川キャンパスにおいて開催予定です。臨地研究会についても開催を予定しております。詳細は第 2 報でお知らせいたします。

## ○第 45 回講演会報告

〈第 45 回講演会 I〉

講演者: 森脇 広氏(鹿児島大学名誉教授)

演題: 「地理学概説—大地系を考える—」

森脇広氏は、自然地理学(地形学)や火山灰編年学を専門とし、鹿児島大学法文学部において教鞭を執られた。本日の講演「大地系を考える」では、系(システム)の中心にシラス台地を置き、巨大火山噴火のメカニズムと分布、火砕流や火山灰の降下範囲、それらが造りあげた地形と人間活動への影響にまでその内容は及んだ。特にシラス台地を、火山灰編年学や火山灰学の視点からのみ取り上げるだけでなく、大地の侵食過程と風景の形成、産業に代表される人々の生活、そして自然災害などにも目を向けてシラス台地という自然地域を理解すべきという主張は大変印象的であった。

〈第 45 回講演会 II〉

講演者: 大岩根 尚氏(三島村役場総務課地球科学研究専門職員)

演題: 「三島村・鬼界カルデラジオパークの取り組み」

この講演は、薩摩半島の南に位置する竹島・硫黄島・黒島からなる鹿児島県三島村総務課に所属し、ジオパーク専門職員でもある大岩根尚氏により行われた。大岩根 尚氏は、2010 年に環境学の学位を取得した後、南極地域観測隊の経験を有する地球科学を専門とする研究者である。演題となった現在の三島村には 400 名弱の島民が住み、約 7300 年前の大噴火によって形成された喜界カルデラの路頭や火砕流跡や温泉などが点在する。また、国の天然記念物に指定されるような植物群落やリュウキュウチクに代表される植物も分布する。大岩根氏は、これらジオサイトの学術研究成果を村民や観光客に提供し地域振興と結びつけるという、ボトムアップ型活動の一端を紹介した。

(集会委員 鈴木厚志)

## ○第 46 回講演会報告

2016年12月6日、立正大学熊谷キャンパスにて第46回講演会が実施された。今回の演者は名古屋大学大学院環境学研究科客員教授の小宮山博氏で、演題は「モンゴルの自然環境と農牧業—国際協力の視点から—」であった。講演内容は、本年3月までの長年にわたる農林水産省や独立行政法人国際農林水産業研究センターにおけるご本人の経験を踏まえ、現場での調査研究や国際協力のあり方を示すものであった。講演ではモンゴルの歴史や日本とのかかわり、モンゴルにおける農牧業の変遷や近年の動向が、最新のデータとともに提示された。

当日は130名ほどの学生が参加し、講演後には学生からも積極的な質問があり、非常に実りある講演会であった。現場をよく知る人による意見や見解は、学生にとってもよい刺激を与え、学問対象としてモンゴルをとらえるのみならず、自身が国際社会の一員としていかに諸外国とかがわっていくのかということを考えるよいきっかけとなったようである。様々な視点からモンゴルを紹介し、学生にとっても収穫の多い講演をしてくださった小宮山先生に、この場を借りてお礼申し上げます。

(集会委員 貝沼恵美)

## ○第 113 回臨地研究会(東京)報告

2016年10月30日(日)、戸田真夏会員、島津弘会員、青木訓穂会員の案内により、第113回臨地研究会が東京都の新宿区、文京区、千代田区において行われた。テーマは「牛込台地—東京の台地と低地—」、参加者は23名であった。

当日は、東京メトロ有楽町線江戸川橋駅から徒歩で出発し、神田川沿いに立地する江戸川橋公園へ向かった。ここでは、神田川とその周辺における台地と低地の成因について説明がなされた。また、神田川上水の取水のために利用されていた関口の大洗堰跡を観察した。

その後、神田川の低地から牛込台地にかけて広がる印刷工場を観察した。台地からの湧水によって支えられてきた製紙産業の名残を感じながら、かつて馬場として使用されていた小日向馬場跡、赤城坂や相生坂といった段丘崖上の坂を登り赤城神社へ向かった。赤城神社では神社の建立と変遷について説明があった。

昼食をとった後、早稲田通り、大久保通りを歩きながら、出版社の集積する地区を観察した。早稲田通りには、進行方向が午前と午後で入れ替わる逆転式一方通行の道路がある。そして、大日本印刷の工場や防衛省が立地する市ヶ谷を通り、ごみ坂歩道橋から台地を刻む谷を観察した。鰻坂、浄瑠璃坂といった段丘崖上の急な坂道を歩きながら、若宮八幡宮を經由し神楽坂の善国寺へ立ち寄った。善国寺では神楽坂の由来について学んだ。

そこから、石畳の路地に料亭が点在する兵庫横丁、多くの飲食店が軒を連ねる本多通り、仲通りの景観を観察しながら飯田濠へ向かった。その後、再び神楽坂に戻り、地藏坂の上にある光照寺にて巡検が終了した。

今回の臨地研究会において、東京都の台地と低地、その上に形成されてきた人間活動との関わりについて詳しく学べたことは貴重な経験であった。また、今回の対象地域である新宿区牛込は立正地理学教室の発展に貢献された田中啓爾先生、服部銕二郎先生、文京区小日向は正井泰夫先生がお生まれになった地域であり、参加した会員にとっても、縁の深い巡検であった。

(集会委員 梅賀亮太)

## ○第 114 回臨地研究会(鹿児島)報告

2016年11月27日日曜日、「南薩の畑作・焼酎・水産加工の現場を巡る」というテーマで第114回臨地研究会が行われた。深瀬浩三会員(鹿児島大)、元木理寿会員(常磐大)の案内により薩摩半島南部を巡った。参加者は25人であった。

午前8時30分降りしきる雨のなか、貸し切りバスは鹿児島中央駅西口を出発し、シラス台地上の団地へ向かった。紫原地域の団地では現在高齢化が進み、西紫原の地域では新たな宅地開発が行われており、同心円状に開発が進んでいるとの解説があった。

次に、鹿児島湾沿岸の埋め立て地に向かい、物流倉庫群を車窓から観察した。特に、日清丸紅飼料株式会社の貯蔵サイロの規模は壮観であった。その後、海岸沿いを南下し、JX 喜入石油基地の近くで石油が備蓄してあるタンク(写真1)などを見学した。喜入石油基地は、日本全体で消費される石油の約2週間分の量を備蓄できるとの解説があった。

枕崎市内では、薩摩酒造花渡川蒸留所明治蔵を見学した。蔵造の景観が残されており、焼酎の歴史から伝統を今現在も受け継いでいることについて解説があった。また、焼酎の豊かな香りを楽しみつつ、製造過程を案内していただいた。見学の最後には、薩摩酒造でつくられている焼酎を試飲させていただき、それぞれの焼酎に最適な飲み方や特徴について解説があった。

次に、穎娃農業者トレーニングセンターの近くで降車し、開聞岳の火山噴出物が堆積している露頭(写真2)を観察した。噴出物が堆積した地層はとても硬く、その上に畑がつくられているため、道路面と畑地面とで約1.5mの高低差がある特徴的な景観をしていた。その後開聞岳の近くを通過し、池田湖を經由して鹿児島中央駅、鹿児島空港で解散した。

今回の臨地研究会では、南薩地域の畑作・焼酎・水産加工の現場を巡り、隣接する地域でも、気候や立地によって産業や景観が異なることを感じる事ができた。最後になりましたが、案内いただいた深瀬浩三会員・元木理寿会員には記して厚くお礼申し上げます。

(集会委員 小林瑞輝)



写真1 石油貯蔵タンク(飯山和也会員撮影)



写真2 畑で観察した露頭(飯山和也会員撮影)

## ○立正地理学会研究委員会の募集(新規)

2017年度の研究委員会を募集します。希望者は下記に示した「立正地理学会研究委員会に関する規程」を熟読の上、規程の5の内容を明記した趣旨書を、島津常任委員長宛(当面の間、常任委員長扱いとします)に郵送(住所等は最終ページに記載してあります)、またはメール(アドレス:geosoc@ris.ac.jp, 件名:立正地理学会研究委員会応募)で提出して下さい。2017年4月14日(金)を締切日と致します。応募件数が多い場合は調整することがあります。

### 立正地理学会研究委員会に関する内規

1. 研究委員会の設置:立正地理学会に、研究委員会をおくことができる。
2. 目的:研究委員会は、地理学の研究・教育に資する成果を挙げることを目的とし、その調査・研究に対して、学会より研究費を補助する。
3. 研究委員会の所轄:研究委員会の募集・決定・審査・成果の開示等に関する一連の管轄は、副常任委員長が行う。
4. 研究委員会の募集:副常任委員長は前年度の秋に発行される学会ニュースにおいて、研究委員会の募集、書類の提出期限について告知する。同内容は学会ウェブサイト上でも告知する。なお、書類の提出期限は、当該年度初めとし、前年度末に発行される学会ニュースでも再度募集の告知をする。
5. 研究委員会の設立:研究委員会の設置を希望する会員は、研究委員会の代表者となり、研究テーマ、会員名、研究委員会成立後の追加募集人員、研究期間、研究の目的、予測される成果を明記し、決められた期限までに副常任委員長に提出する。なお、研究委員会は設立時に3名以上で組織する。また、学生会員も代表となることができるが、研究委員会には1名以上の一般会員を含むものとする。
6. 研究委員会の成立:副常任委員長は、申請内容に基づき研究委員会の成立の可否を常任委員とともに検討し、その結果を代表者に伝える。
7. 研究委員会成立の説明と委員の追加募集:副常任委員長は、成立した研究委員会の代表者名、研究テーマ、研究期間、追加募集人員等を当該年度の総会で説明し、学会ニュース、学会ウェブサイトに掲載する。また、研究代表者は必要に応じて学会ニュース、学会ウェブサイト上で委員を追加募集する。なお、研究委員会は広く会員に開かれたものであることが望ましい。
8. 研究委員会の発足:成立をみた研究委員会は、代表者が中心となって活動を行う。
9. 研究委員会の年限:研究委員会の活動期間は2年とする。ただし、その後1年間の延長を可とする。その場合、研究委員会の代表者は研究の中間報告書と延長する理由書を、副常任委員長に提出しなければならない。
10. 研究費:研究費は、1研究委員会に対して年額10万円を上限とする。予算は研究委員会の成立と同時に執行ができる。
11. 会計報告:会計年度は、立正地理学会の会計年度に準じる。毎年度末に当該年度の収支報告書に領収書を添えて、副常任委員長に提出しなければならない。
12. 研究委員会の終了:研究委員会の終了時には、終了報告書を副常任委員長に提出しなければならない。
13. 成果の公表:研究委員会の活動中にあつては、立正地理学会研究発表大会において、中間報告を行うこと。なお、研究委員会終了後は、口頭発表のほか、『地域研究』にその成果を投稿するものとする。
14. 内規の改廃:本内規は常任委員長または副常任委員長が発議し、評議員会の議を経て行うものとする。

(常任委員長 島津 弘)

## ☆地理学教室だより☆

### 2016 年度卒業論文発表大会報告

第 12 回立正大学卒業論文大会が 2017 年 2 月 6 日、7 日に行われました。今回の大会では、口頭発表 7 名、ポスター発表 30 名の方が発表を行いました。当日は、学生を中心に多くの方が大会に参加し、活発に議論などが行われている様子も見られました。

今回の学会ニュースでは、大会で発表された研究の一部を広報委員による取材レポートをもとに紹介したいと思います。

#### 中島健太『熊谷市における災害危険指標による災害診断図の作成』

中島さんは日本が様々な災害の発生する災害国であり、過去の教訓から防災対策活動が活発に実施されているということから防災地図に着目しました。都市機能の中から危険分子を抽出し、地域内に潜在している危険地帯を把握するための防災診断図を作成することで地域における防災の課題を考察しました。取り扱う災害は、地震発生後の都市機能に関する二次災害の恐れがあるものを選定し、火災、交通障害、緊急期待度を対象にそれぞれの危険指標を設け、特定多数集合施設(学校、託児所、老人ホーム)を明記して作成しました。熊谷市を事例とした診断結果では、火災に関して都市域において火気を扱う施設が集中しているため危険地帯であり、さらに危険地帯内には託児所が多く立地していることを明らかにしました。交通障害に着目すると、熊谷駅周辺において交通障害の危険があり、国道沿いは車の往来を抑制する要素によって渋滞などの交通障害をひき起こす要因があることを明らかにしました。さらに、緊急期待度が低い地域は、ほかの地域と比べ高齢者の割合が高いことを明らかにしました。

今回の研究に取り組むにあたって、直接的な災害による被害だけではなく、間接的な災害にも目を向け、あらゆる状況を考慮した防災地図に取り組む必要があると述べていました。

(広報委員 松澤希望)



口頭発表の様子(松澤希望会員撮影)



ポスター発表の様子(飯山和也会員撮影)



## 秋山栞里『埼玉県加須市における東北地方太平洋沖地震時の被害分布と微地形との関係』

この研究は、東北地方太平洋沖地震時において、微地形と家屋の被害状況についての関係性を明らかにすることを目的に行いました。地形図をもとにした地形判読の他、被害状況に関する聞き取り調査などを行いデータの収集を行いました。その他にも、一般に公開されている地質に関するボーリング調査の結果を活用するなど、多角的な視点からアプローチしています。集めたデータは GIS を用いて重ね合わせを行うことで、微地形と被害状況の関係について明らかにしました。その結果、自然堤防の縁に被害が集中している傾向があることを示唆しました。一方、自然堤防の中央部では被害が比較的少ない傾向が見られました。これらの結果から、地震時における被害の規模は自然堤防と関係しているのではないかと考察しています。但し、今回の研究では、対象とした家屋のサンプル数が少ないことがあげられています。今後はさらに多くのサンプルをもとに調査を進めることで、より精度の高い結果が求められると述べていました。

(広報委員 飯山和也)

## ○『地域研究』への投稿のお願い

本学会の機関誌である『地域研究』は、『立正地理学会 1955 年度研究報告』として 1956 年に創刊され(1964 年から現在の名称)、数多くの論文や地理学関連情報を発表し、地理学分野における研究・教育の発展に寄与してきました。2017 年 3 月には第 57 巻が刊行されるに至り、通巻では 100 号を迎えます。60 年あまり本誌が続けられてきたのは、会員皆様のご協力のたまものと、編集委員会一同、深く感謝しております。

今後も地理学分野における研究・教育の発展に貢献し、本学会の活動を内外に示すためにも、『地域研究』の刊行は極めて重要な意味を持つと考えられます。本誌では、論説、展望、研究ノートという学術研究の成果に関する論文だけでなく、書評、巡検報告や地域の情報などに関する情報を対象とするフォーラムなども掲載しています。会員の皆様におかれましては、論文の投稿とともに、書評、フォーラムなどへの投稿を積極的に行ってくださいますよう、よろしくお願いいたします。

(編集委員会)

## ○今年度卒業予定の学生会員の皆様へ

この 3 月で卒業される学部 4 年生・院生の会員の方々には、来年度以降も会員として継続されることをお薦め致します。引き続き立正地理学会会員として、学会活動にご参加下さい。学会ニュースやホームページなどで、学会活動の他、地理学教室の情報などを提供していきます。会員継続をぜひご検討下さい。

継続される方は、卒業証書授与式で配布する継続届を記入の上、『地域研究』『学会ニュース』に同封する払込取扱票にて 5 月末日までに会費をご納入下さい。他大学や大学院などに進学される方は学生会員(年会費 2,500 円)、それ以外の方は一般会員(年会費 4,000 円)となります。

## ○会費納入のお願い

2016 年度分の会費が未納の方には、今回の学会ニュースに「会費納入状況のお知らせ」と「払込取扱票」を同封しておりますので、ご納入下さい。また、過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円  
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際は、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

※今年度をもって退会を希望される方は、3 月末日までにご連絡下さい。ご連絡がない場合は、自動的に次年度継続として、会費の請求を行わせて頂きます。

(庶務会計委員会)

### 編集後記

寒さも徐々に緩み、来月から新年度が始まります。2016 年度は多くの方に原稿の依頼やインタビューにご協力いただきこの場をお借りしてお礼申し上げます。鹿児島での臨地研究会では、多くの先輩方に昔の地理学科の様子や熊谷キャンパスについての話など興味深い話をしていただいたことで、改めて立正地理の歴史を感じることができました。広報委員会は、2017 年度も会員の皆様にインタビューや原稿をお願いすることがあるかと思いますが、その際にはご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(広報委員 飯山和也)

### 立正地理学会ニュース No.119

2017年3月22日発行 編集者 立正地理学会広報委員会  
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室  
電話 048-539-1672 振替 00130-8-13453